令和８年度　第３回

金沢市ＤＸ会議

令和８年度　第３回金沢市ＤＸ会議　次第

開会

１ 報 告

・報告事項　デジタル行政推進リーダーの活動について
・報告事項　AIの活用状況について

２ 議 事

・議 題　委員提言

３ 意見交換

閉会

金沢市ＤＸ会議　委員　（敬称略・五十音順）

氏名	所属団体・役職等
稲継　裕昭	早稲田大学 政治経済学術院 教授
浦田　真由	名古屋大学 大学院情報学研究科 情報学部 人間・社会情報学科 教授
中沢　実	金沢工業大学 情報理工学部 情報工学科 教授 同大学　AIラボ所長
野田　景子	日本マイクロソフト株式会社 執行役員 チーフラーニングオフィサー　プロフェッショナルスキル開発本部長
福島　健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事
宮内　康範	一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長 新ビジネス創生部会長

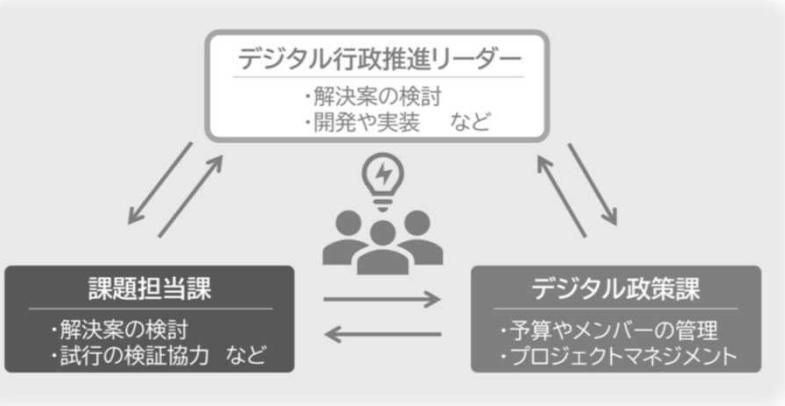
報告事項

デジタル行政推進リーダーの活動について

報告事項　デジタル行政推進リーダーの活動について（庁内ＤＸプロジェクトチーム）

（1） 令和8年度庁内DXプロジェクトチーム活動について

庁内各課から提出された課題に対し、
「庁内DXプロジェクトチーム」を編成し、
庁内組織を横断して課題解決に取り組む



活動期間　令和8年7月1日（水）～9月30日（水）

参 加 者　10名（デジタル行政推進リーダー）

庁内課題　① 乳幼児期任意予防接種費助成制度業務

② 市立保育所延長保育料及び給食費算定業務

③ 金沢市建築計画概要書等閲覧システム管理業務

報告事項　デジタル行政推進リーダーの活動について（庁内ＤＸプロジェクトチーム）

課題担当課	課題概要	成果・改善提案
健康政策課	年間約1万件の乳幼児期任意予防接種助成金の 申請において、 申請ルートの多様化や制度の複雑化で、 職員の業務負担が大きくなっている。	「電子申請画面のUI改善による確認作業の効率化」と 「Access機能のシステム化による保守性向上」を 提案した。
保育幼稚園課	市立保育所から報告される延長保育料・給食費データの 確認・変換作業や、 金額決定通知書の印刷後の帳票整理作業に 多くの手作業が発生しており、 職員の業務負担が大きくなっている。	「転記・データ加工の自動化」と 「金額決定通知書の出力様式見直し」により、 職員の負担軽減を実現した。
建築指導課	建築計画概要書を閲覧システム用に データ変換するにあたり、 目視確認作業が発生している。 また、マクロの保守・運用が困難となっている。	複数のマクロを1つのPower Queryに集約し、 処理を簡素化することにより、 職員の負担と保守負担軽減を実現した。

報告事項

AIの活用状況について

（1） 生成AI自動応答システム構築モデル事業について

LLM（大規模言語モデル）とRAG（検索拡張生成）を組み合わせ、職員が作成したデータを元に、結果を検証する

担当課	システム概要	システム構築による効果
議事調査課	議会運営上必須の資料（3冊）を学習させ、 過去の事例や条例、規則などを 速やかに確認できるようにする。	突発的な事例や過去の事例を確認するために、 過去の会議録などを検索することが 議会期間中に限らず多いため、 議員対応時など即時に確認することで、 対応の質及び回答精度が向上する。
幼児教育センター	幼児教育施設からの給食関連の問合せに対し、 これまで蓄積したQ&Aを学習させ、 素早く端的に回答できるようにする。	給食・栄養に関するデータが いくつものファイルに分かれている現状があり、 ひとつに集約することで、 職員が回答に要する時間を短縮できる。
河川水防課	河川や水門・水防施設の情報や 過去の要望対応などを学習させ、 検索を支援する。	市民からの問い合わせが約11回以上／週あり、 その半数は関連情報を検索（約30分）・確認したうえで 回答しているが、 システム構築により検索時間がほぼ不要となる。

報告事項　AIの活用状況について

1．exaBaseの現状

〇アカウント発行数は順調に増加中。
（令和8年8月末現在で、アカウント発行数：1,478名、利用者数：779名）

利用月	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月
月間利用者数	775名	783名	779名

〇令和8年9月1日、同時接続数を50⇒100に増加。

2．QommonsAIの試行開始

〇令和8年9月8日、107名（デジタル行政推進リーダー、DXアドバイザー）で試行開始。

〇1,000アカウントまで無料で使用可能。

3．その他のAIについて

〇AIを使用してのPower Point、画像作成の要望が多いことから、
　デジタル政策課にてCopilot Chatの試行開始。

議　題

委員提言

金沢市 DXアクションプラン2.0 提言

ご提案）金沢市「AI駆動型行政モデル」

AIを使う行政から、AIを前提に仕事を再設計する行政へ

全国に先駆ける
「地方都市型AI行政モデル」を金沢から創る

AIを導入するだけでなく、AIがあることを前提に
行政の仕事を継続的に再設計し、市民価値へ変換する。

石川県情報システム工業会）宮内康範

1. AIを前提とした仕事の再設計

- ✓ DX2.0の103事業を18部局が推進し、実践を通じた知見と手法が蓄積されている。
- ✓ 部局ごとに異なる事業の中にも、文書作成や問い合わせ対応など、共通する業務プロセスがある。

DX2.0 掲載事業

18部局・計103事業

魅力づくり	14
暮らしづくり	37
人づくり	13
仕事づくり	9
都市づくり	30

AIで業務を再設計

AIを活用した共通業務の抽出と改善手法の共有

- 文書作成・要約
- 庁内検索
- 問い合わせ対応
- 申請確認・審査支援
- データ分析
- 判断材料の整理

改善手法の型化と横展開

- ・AIで各事業の業務プロセスを整理し、共通点を抽出する
- ・有効性を確認した改善手法を「型」にまとめる
- ・型の活用で得た知見をAIで反映し、型と業務を継続的に改善する

改善手法の再利用で事業展開を早め、行動指針の「スピード感」と「チャレンジ」を実践する。

出所：第2回DX会議資料 p.5–7（部局ごとの事業数）・発言要旨 p.1、DX2.0 p.11・17より再構成

2. ポイント-1：AIの役割と安全な運用（安全安心な「基盤構築」）

- ✓ AIの役割は、検索・文書作成の支援から、複数の手順を伴う業務の実行へと広がっている。
- ✓ 業務に応じてチャット型AIとAIエージェントを組み合わせ、効率化と品質向上を図る。

	日常のチャット型AI	AIエージェント（AI駆動 行政の主）
目的	日常業務の効率・品質の向上	一連の業務の効率化・自動化
用途	検索・要約・文書作成	複数手順の処理・システム操作
データアクセス	職員が入力した情報のみ	許可された庁内のデータを直接参照
基盤	利用者認証と権限を備えた対話型AI環境	**認証・権限・承認・記録を備えた自律型AI環境**
統制	利用ルールの整備・職員教育	**操作ログ監査・停止／復旧 例外時の対応を事前に設計**
	人が出力を確認し、業務に活用	人が実行範囲を定め、AIが業務を実行

AIに任せる業務の設計と、安全に実行するための基盤整備を一体で進める。

参考：第2回金沢市DX会議資料・発言要旨。

3. ポイント-2：ブロードリスニングによるAI駆動型行政

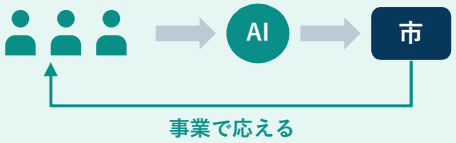
- ✓ DX2.0の基本理念「全ての人が便利に暮らし、幸せを実感するまちへ」をAI駆動型行政で実現する。
- ✓ 幸せの実感を妨げている不便や負担を、金沢市に関わる全ての人の行動データから可視化し、継続的な事業改善へ繋げる。

これまで：ブロードキャスト型行政



- 行政の情報を市民に広く届ける
- 全ての人の声は現実的に聞けない
- 事業の効果測定が限定的

これから：ブロードリスニング型行政



- 声になりにくい困りごとを、行動から聴く
- 全ての人の膨大な情報をAIで理解する
- 幸せを向上させる事業活動で応える

AI駆動型行政によるDXフロー

可視化

1 行動データを集める

申請の途中離脱、
同じ内容の問い合わせ、
窓口の待ち時間など

金沢市（各部局）

2 AIで集約・分析する

大量のデータを、
常時処理して
傾向と変化をつかむ

AIエージェント

3 不便を可視化する

市民が困っている
手続・地域・分野を示す

大学・学生

最適化・自動化

4 業務の型で改善する

共通業務の型を各部局に
展開し、迅速に改善する

金沢市（各部局）

5 安全に運営する

全ての人が安心・安全に
利用できるAI基盤を
構築・運用する

ISA・地元企業

「AIを使える金沢市」から、「AIで行政を変え続ける金沢市」へ。

出所：第2回DX会議資料 p.10–12・発言要旨 p.2、DX2.0 p.08を基に提案

第3回 金沢市DX会議　委員提言

「使われるデジタル」から「成果を生むデジタル」へ

金沢市DXアクションプラン2.0 推進に向けた提言

令和8年10月22日（木）

名古屋大学 大学院情報学研究科 教授　浦田 真由

①「量」から「成果」へ。指標を見直し続ける評価の仕組みに

いまの指標の課題

- 利用件数・参加者数が中心で、使った結果どうなったかが見えにくい
- 2025年度のKPIはすべて目標を上回った（第1回資料 p.28）。次は目標水準の見直しが課題
- 年代・地区・障害の有無など、誰が使えていないかが分からない

1 成果指標を併設する

参加者数に加え、継続利用者数（かなパス）、対象手続のオンライン完結率（電子申請）などを追う

2 属性別に見える化する

年代・地区・障害・外国人住民別に利用状況を分け、「取り残し」を早期に把握する

3 目標を年次で見直す仕組みに

達成率が高い指標は上方修正、伸びない施策は要因分析のうえ改善・統廃合を検討する

②公式HPを「AIにも人にも伝わる」情報源に

AI時代のWebサイトの2つの役割

役割①

AIに伝える情報源

AIが正しく読み取り引用できる（AIO・LLMO・GEO）

役割②

人が確かめる接点

申請・予約・問合せで最終確認する

公開されている知見から

- Google公式：AI機能に載るための特別な対策や専用のマークアップは不要。重要な内容をテキストで提供することが基本
- GovTech東京（2025年）：自治体サイトは、見出しの構造化・分かりやすい文章・構造化データが要点

特別な技術より、正確で最新の情報を、テキストで分かりやすく公開することが土台

1 HPの内容を、オープンライセンスで公開（理想）

公共データ利用規約（PDL1.0）等の利用条件をHP全体に明示。現行は原則、無断複製・転用不可（要許諾）

2 AIが読み取りやすいページに

重要な情報は画像やPDFだけにせずテキストで載せ、見出し・表で構造化。更新日・担当課・問合せ先を明記

3 正確・最新の「正本ページ」を保つ

古い情報は更新か削除し、URLは変えない。AIの回答が誤っても、確かめられる公式情報が常にある状態に

③講座から「日常の伴走支援」へ。使う場面から学べる環境を

1,412名
地域スマホ講座 のべ参加者
（2025年度・144コマ）

12名
障害のある人向け
デジタル相談窓口の利用者（2025年度）

1,769 → 40,000
かなパスのDL数（2025年度）→
利用者数の2029年度目標

1

市民センター等に相談を常設

講座の「開催」から「いつでも相談できる場」へ。書かない窓口の運用開始を機に併設する

2

使う場面から学ぶ

かなパス×健康ポイント×避難所受付など、生活シーンとセットで教え、使い始めまで支援する

3

デジタルサポーターの育成

学生・シニア・企業人材が担い手に。謝礼など、続く仕掛けを用意する

提言内容のまとめ

1. **成果指標の年次見直しを、計画上の仕組みにできるか**
   「毎年、時点修正を行う動的なプラン」に沿って、指標も見直していく

2. **HPを、（オープンライセンスで）、AIが読み取りやすい形で公開できるか**
   利用条件の明示と、重要な情報のテキスト化・構造化

3. **デジタルデバイド：相談の常設先と担い手を、どう整えるか**
   市民センター等での相談の常設と、大学・企業・市民によるサポーター

金沢市への提言

金沢市-生成AIハッカソン2026

生成AIを活用した行政課題の解決

市職員と学生が、実際の業務を題材に試作品を開発

金沢工業大学　AIラボ所長
中沢　実

金沢市・金沢工業大学の共催に向けた実施提案

2026年10月7日

提言の要点

行政の課題を、動く試作品で検討する

開催案	1月後半から2月前半の二日間 金沢市役所 第一・第二本庁舎
参加案	大学3年生 約20名、市職員10〜20名 デジタル行政推進リーダーを中心に参加
共済	金沢市・金沢工大で共催予定

共催の目的と期待する効果

金沢市

職員が生成AIを使い、
業務の改善案を具体化する

デジタル行政推進リーダーの活動を活性化
職場の課題解決への意欲を高める
学生がまちなかに足を運ぶ機会をつくる

金沢工業大学

学生が行政の実課題に触れ、
生成AIを用いた開発を経験する

行政職員の助言を受けて改善を重ねる
行政機関の仕事への理解を深める
地域で学び、行政への就職を考える契機に

期待する効果は、参加者アンケートと試作品の評価で確認する。

行政課題の候補とテーマの選び方

分野	試作する機能の例
行政業務の効率化	窓口FAQ、議事録の要約、条例検索、文書分類
市民サービス	ごみ分別案内、子育て支援情報、移住相談の案内
観光振興	多言語案内、観光ルートの提案
防災	避難所の案内、災害FAQ、備蓄管理の支援

選定基準案：担当課が明確、公開可能な資料がある、短時間で試せる、効果を比較できる。

職員と学生の協働体制

予算は学生20名・職員20名の20ペアを想定

担当	担う役割
金沢市の参加職員	実際の業務を説明し、回答の正しさと使いやすさを確認
学生	要件を整理し、生成AIを用いて実装・修正・発表
大学・運営	事前実習、開発支援、利用量管理、評価の取りまとめ
専門家メンター	技術相談とレビューへの協力を依頼（参加は要調整）

市職員が10名の場合は、学生2名＋職員1名などへ調整し、チーム数・予算配分を再計算する。

事前準備と学生向け実習

担当課の準備

解決したい業務を一つに絞る
業務の流れ、FAQ、マニュアル、評価用の質問例を整理

データの準備

公開データ、公開可能な文書、匿名のサンプルを共有
担当課が利用範囲と公開可否を確認

学生の半日実習

Vibe Coding：自然言語でAIに実装・修正を依頼
キー管理、費用確認、動作・生成内容の検証も演習

実習の到達目標案：各学生が小さなアプリを動かし、修正と動作確認まで実施できる。

3日間の実施案

日程	午後の主な活動	その日の成果
1月後半(事前準備)	課題説明、チーム編成 要件整理、開発準備	対象業務と評価条件 最小限の試作品
2月前半(初日)	アイデアから仕様書へ、 職員のフィードバック 仕様修正と開発開始	主要機能が動く試作品 確認結果と改善点
2月前半(最終日)	評価用の質問で検証 デモ、発表、講評	試作品、評価結果 継続検討事項

各日の時刻と開発時間は要調整。最終日には成果と次の検討事項を報告する。

成果の評価と導入検討

担当課が、従来の方法と試作品を比較する

評価する内容	確認方法の案
正しさ	担当課が用意した質問で、回答と出典を照合
業務への効果	作業時間、手順数、修正が必要な箇所を記録
使いやすさ	職員が操作し、迷った点・改善要望を記録
継続運用の条件	担当部署、データ更新、保守費、権利・安全性を確認

終了後は有望な試作品を選び、限定した試行の条件を協議する。導入は評価・審査後に判断する。

生成AI・クラウドの利用管理

入力と回答	公開可能な資料・匿名サンプルを使用 個人情報・非公開行政情報を入力せず、職員が回答を確認
キーとアクセス	チーム別キーを発行し、サーバー側で管理 コード・ブラウザ・発表資料にキーを掲載しない
支出と終了処理	利用額を定期確認し、追加利用は運営が承認 終了後はキーを失効、クラウドを停止・削除

成果物の保存・公開範囲は担当課と協議。残存リソースを7日以内に点検し、30日以内に整理する。

継続のための構想

今回の実施

金沢市と金沢工業大学で実施

市は課題提供、職員参加、会場・実施調整に協力

継続開催に向けた構想

企業協賛：行政システム開発企業との接点と技術交流
研修・AIラボ：IT企業向けセミナーと会費収入
企業への導入支援：共同検討やコンサルティング契約

企業協賛・契約収入は未確定。継続事業の収支と運営主体は、今回の結果を踏まえて協議する。

金沢市にお願いしたい協力事項

参加と会場の調整	デジタル行政推進リーダー10〜20名の参加を調整 2月前半の会場、ネット接続、担当窓口を確認
課題と資料の提供	担当課ごとに業務課題と公開可能な資料を準備 開発中の助言と、試作品の正しさ・使いやすさを評価
成果の次の扱い	金沢市役所・金沢工業大学にて結果を共有 有望な試作品について、継続試行の担当課と条件を協議

協議事項：開催条件の確定、チーム編成、予算の税・対象費目、成果物の権利と公開範囲。

金沢市-生成AIハッカソン2026 企画概要

48時間で金沢市を変える

Vibe Coding：自然言語でAIにコードの生成・修正を依頼する開発方法

行政業務の効率化

窓口FAQ ／ 補助金案内
議事録の自動要約
条例検索 ／ 文書分類

市民サービスの向上

ごみ分別支援 ／ 子育て相談
高齢者支援 ／ 移住相談

観光振興

AI観光コンシェルジュ
多言語案内
観光ルートの提案

防災

避難所案内 ／ 災害FAQ
備蓄管理支援

従来：課題発見、アイデア創出、部分的な試作、発表・フィードバックで終了

課題発見 → **AIで高速開発** → **試作品の完成** → **実業務での試行** → **職員による評価** → **導入検討**

試行・評価の観点：金沢市の業務で試し、利便性・効果・実用性を確認。優れた成果は導入に向けて検討

DAY1　1月後半

13:00　オリエンテーション
13:30　自治体課題説明
15:00　チームビルディング
16:00　Vibe Coding講習
18:00　中締

DAY2　2月前半

10:00　Vibe Codingによる開発
　　自治体職員が継続して助言
18:00　中締

DAY3　2月前半

10:00　開発のエビデンス整理
13:00　デモと自治体職員の
　　フィードバック

事前準備：課題の洗い出し、詳細化、資料・データの整理、参加学生への共有

協働体制：学生チーム（原図は4〜6名）＋自治体職員＋企業・専門家・KIT教員。具体的な日付と体制は要調整

金沢市-生成AIハッカソン2026 将来的へのスキーム

行政課題に取り組む学生の開発を、地域企業との連携で継続的に支える構想

企業スポンサー

北陸三県の
行政システム開発企業

ハッカソンの趣旨への賛同・協賛
企業の技術力・ブランドの紹介
学生との接点の創出

研修・AIラボ

北陸三県のIT企業

Vibe Codingセミナーの定期開催
AIラボでの知見・事例の共有
最新技術トレンドの把握

企業への導入支援

北陸三県の特定企業

Vibe Codingの導入・内製化支援
実際の業務課題を伴走して解決
実践的なプロジェクトの推進

スポンサー協賛金
広告・協賛

AIラボメンバーシップ費
年会費・参加費

コンサルティング契約費
プロジェクト費用

ハッカソン運営予算

会場費・機材費・クラウド費用・運営人件費・広報費・賞金など

期待する成果：学生の開発経験と行政サービスの改善、企業のDX推進・人材育成・技術力向上

協賛・契約・収入は未確定。今回の費用は金沢市と大学の負担を基本に別途確保する。

日本マイクロソフト株式会社 ／ 2026年9月

金沢市DXアクションプラン2.0に関するご提案

制約の特定と解消による成果の早期実現に向けて

日本マイクロソフト株式会社　Chief Learning Officer　野田　景子

ごあいさつ

本資料をお届けするにあたって

このたびは「金沢市DXアクションプラン2.0」を拝読する機会を賜り、誠にありがとうございます。

本資料は、公開されております同プランを拝読したうえで、弊社の視点から、
貴市のお取組みをさらに前へ進めるための一案として取りまとめたものでございます。

貴市におかれましては、市民の皆様に向けたデジタルサービスの整備を着実に進めてこられました。
本提案は、その成果をさらに高めるための視点をご提供するものであり、
これまでのお取組みを否定するものでは決してございません。

ご高覧のうえ、忌憚のないご意見を賜れますと幸いです。

取組の主体は一貫して貴市であるべきとの考えのもと、ご提案を申し上げます。

日本マイクロソフト株式会社　Chief Learning Officer　野田　景子　／　2026年9月

エグゼクティブサマリ

制約を一つ解消することで、成果の早期実現が見込まれます

拝読して見えてまいりましたこと

・貴市のプランは市民向け施策が具体的で、
推進体制も整った優れた計画と拝察します。

・一方、成果の総量を決めているのは
「市役所内の処理プロセス」であり、
指標も構造の記述も見当たりません。

・入口（市民接点）が既に進んでいるため、
制約は1か所に絞れると考えております。

提案 ① **基盤を通す**

情報がどこに置かれ、誰が使え、どう守られるか

提案 ② **制約を外す**

1〜2の所管課を選定し、
その課の業務全体と働き方を再設計

提案 ③ **人が回せるようにする**

職員の皆様が自ら業務を設計し直せる状態をつくる

弊社の関わりは設計のご議論までとし、取組の主体は一貫して貴市であるべきと考えております。



第 1 章

本プランの狙いと施策の全体像

計画の狙いと施策の実体を整理いたします

要約

3点に要約いたします

01 貴市は、この4年で「デジタルを使ってみる」段階から、
「デジタルが市民生活に定着している」状態を目指しておられます。

02 狙いは、市民の皆様の利便性の向上と、
人口減少下においてもまちが機能し続けることにあります。

03 そのために、市民向けサービス17個に数値目標を設定しておられます。

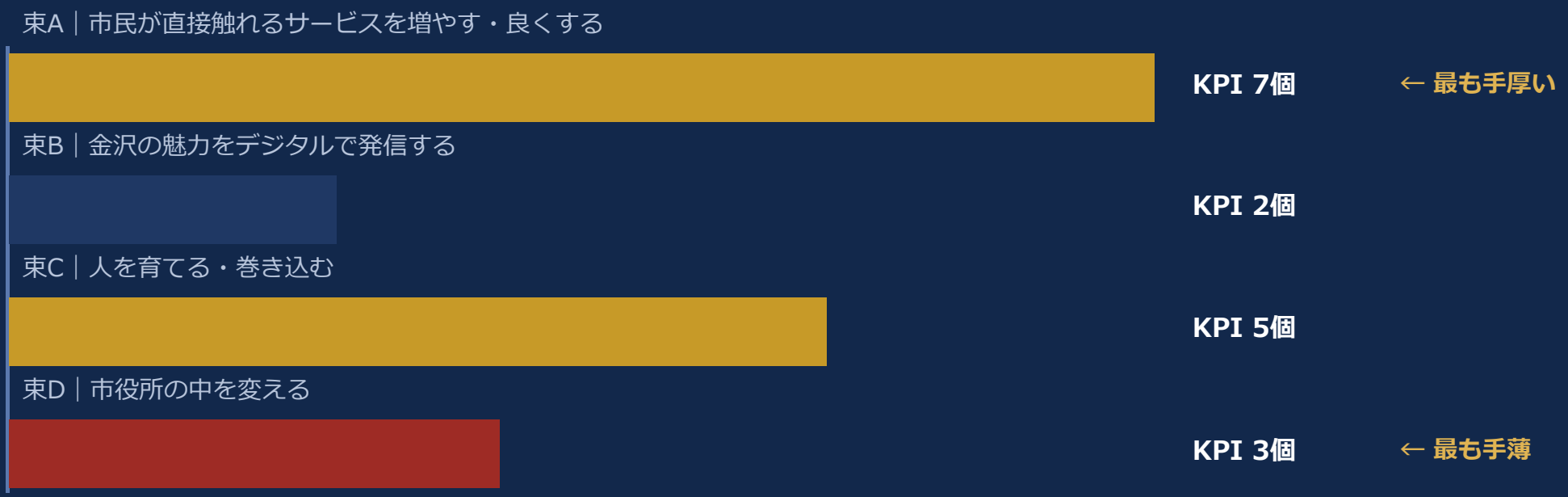
補足：計画期間は2026年度～2029年度の4か年で、上位計画「未来共創計画」の「充実期」に合わせたものと拝察いたします。毎年時点修正を行う動的なプランとされています。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

施策の実体

施策を実体に即して4つに整理いたしました

プランは「5分野 × 2視点」で構成されていますが、実体で並べ直すと4つの束として整理できます。



横棒の長さ＝その束に置かれたKPIの数（合計17項目）

KPI 17項目のうち、市役所内（職員側）に置かれている指標は3項目にとどまっております。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

施策の実体

4つの束の内容

束A　市民が直接触れるサービス

妊娠届出の来庁オンライン予約 90%以上
一時預かり施設のオンライン予約 50%以上
電子申請サービス利用件数(累計) 47万件
市公式HP利用者満足度 75%以上
建築計画概要書のインターネット閲覧 80%以上
「かなパス」利用者数 40,000人
公共交通の利用環境が良いと感じる市民の割合 50%以上

掲げられている合言葉は「行かない市役所」「書かない窓口」です

束B　金沢の魅力をデジタルで発信

金沢旅行の満足度 95%以上
「金沢市デジタル工芸展」つくり手掲載数 500人

文化・観光という、他都市にはない資産と拝察いたします

束C　人を育てる・巻き込む

「デジタル科」に肯定的な児童生徒の割合 70%以上
学校外の学習・交流イベント参加者数(累計) 650人
シビックテック関連イベント参加者数(累計) 800人
AI導入・DX化支援件数(累計) 15件
社会実装の支援件数(累計) 8件

市民・子ども・地元企業を担い手と位置づけておられます

束D　市役所の中を変える

庁内向け生成AI利用者数 1,600人
庁内向けBIツールダッシュボード公開数 20件
デジタル行政推進リーダー育成数(累計) 40人

KPI 17項目のうち職員側は3項目です

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課



第 2 章

過不足の棚卸し

10項目について、記載の状況を整理いたしました

棚卸し

十分な記載、限定的な記載、確認できなかった記載

記載の状況	項目	当方の理解
◎ 十分に記載	①理念・行動指針	「幸せを実感するまち」と5指針が一貫して継承されています
◎ 十分に記載	②自己位置の定義	Stage1→Stage3の段階設定は、他に例を見ない強みと存じます
◎ 十分に記載	③市民向け施策	17KPI中12項目。具体的で担当課まで示されています
○ 記載あり	④推進体制	DX推進本部と金沢市DX会議により意思決定の場が整っています
△ 記載が限定的	⑤2029年の到達姿	4つの状態はございますが、時点目標や職員・基盤の姿は確認できませんでした
△ 記載が限定的	⑥職員側のDX	3KPIは市民向けと並列で、独立した章は見当たりません
△ 記載が限定的	⑦成果の測り方	全KPIが件数・参加者数・満足度で、速さの指標は確認できませんでした
× 確認できず	⑧デジタル基盤	データ連携・ID・セキュリティに関する記述・KPIが確認できませんでした
× 確認できず	⑨業務プロセス改革	審査・合議・決裁・通知の見直しへの言及が見当たりませんでした
× 確認できず	⑩人口減少下の成長	目指す姿には明記されていますが、対応するKPIが見当たりません

本整理は公開資料を拝読した範囲での当方の理解であり、認識に相違がございましたらご教示賜れますと幸いです。
◎○の4項目は継承すべき強みと拝察いたします。△×の6項目が、今後補われるべき領域ではないかと存じます。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課



第 3 章

制約はどこにあるのか

成果の総量を決めている一点を特定いたします

考え方

鎖の強さは、最も弱い輪で決まります

どのような仕組みにも必ず「最も弱いところ」があり、全体の成果はそこで決まると考えられています。
他の輪をいくら太くしても、弱い輪が切れれば鎖は切れます。補強すべきは、その弱い輪一つです。



最も弱い輪

制約以外をいくら改善しても、全体の成果は増えないと考えております。

最重要

入口は広く、細いのは中間の工程と拝察いたします

市民が見る側

電子申請／オンライン予約
かなパス／HP改善

KPI 12項目・予算と関心が集中

→

市役所の中

受付→審査→合議
→決裁→通知

KPI 3項目・構造の記述なし

→

市民に届く成果

中間工程の細さで決まります

中間の細い箇所＝庁内の処理プロセス

受付	審査	合議	決裁	通知

入口を広げても、産出量は中間の細い工程で決まると考えております。

注意：入口のみを速くいたしますと、滞留が増え、かえって「待たされ感」が強まる場合がございます。
期待を高めた分、ご期待に沿えない結果となりかねないと存じます。

見立て

この状況は、貴市にとってむしろ好条件と拝察いたします

入口側が既に進んでおり、制約が1か所に絞り込める状況にあります。
一つ解消することで、全体の成果が大きく向上すると考えております。

「入口が進んでいる」と拝察する根拠

01

プラン策定趣旨の記述

「ペーパーレス原則への転換のもと、電子申請やキャッシュレス決済の拡充をはじめ、RPAやAI-OCRの導入、デジタル人材の育成などを通じ、DXの土壌の醸成から、デジタルの『社会浸透』に向けた取組を推進してきました」

02

すでに名前を持って動くサービス群

「かなざわ育みアプリ」
「いしかわ中央子育てアプリ」
「かなパス」
「金沢市デジタル工芸展」
電子申請サービス

03

高い目標を掲げられることそれ自体が裏づけです

妊娠届出のオンライン予約率に90%以上の目標を掲げられるのは、土台があるからこそと存じます。

※これは、取組が進んでいない団体では整えられない条件と存じます。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

前提の確認

ただし、区別させていただきたい点がございます

貴市の庁内側で取組が行われていない、という趣旨ではございません。

部分的な自動化（RPA・AI-OCR）

実施済み

プロセスそのものの再設計

今後の課題

RPA・AI-OCRは、既存の業務プロセスを前提に手作業を機械に置き換える手段でございます。
申請→受付→審査→合議→決裁→通知という流れそのものの再設計は、今後の課題として残されていると拝察いたします。

**この点は、プランが掲げる Stage2（デジタライゼーション）から
Stage3（デジタルトランスフォーメーション）への移行と一致するものと考えております。**



第 4 章

提案

3段構えで、順を追って解消してまいります

提案

3つの提案は、順序に依存しております

第1段

基盤を通す

情報がどこに置かれ、誰がアクセスでき、どう守られるか

第2段

制約を外す

1～2の所管課で課題を洗い出し、業務全体を再設計いたします

第3段

人が回せるようにする

職員の皆様が自ら業務を設計し直せる状態をつくります

基盤なくして制約は外せず、人材なくして再設計は進みません。

いずれか一つを選ぶという性質のものではなく、順を追って積み上げるものと考えております。
第1段と第2段はセットでご議論いただき、第3段は第2段と並走して立ち上げさせていただきたいと存じます。

第 1 段

基盤を通す

貴市が既に掲げておられる3つのKPIの実現には、その前提となる土台が必要と考えております。

1,600人	20件	40人
庁内向け生成AI利用者数	庁内向けBIツールダッシュボード公開数	デジタル行政推進リーダー育成数(累計)

土台とは「情報がどこに置かれ、誰がアクセスでき、どう守られるか」でございます。
プランではKPIが先に掲げられておりますが、そこに至る道筋の記載は確認できませんでした。

これは新たな要求を申し上げるものではございません。
貴市が自ら掲げられた目標を、達成可能にするための提案でございます。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

第 2 段

制約を外す

全庁一斉ではなく、1〜2の所管課に絞り、課題を洗い出したうえで業務全体の進め方を再設計いたします。

所管課の選定基準

業務量の多さ × **手作業の比率** × **市民を待たせている度合い**

プランのKPIに既に登場する領域（妊娠届出、一時預かり、建築計画概要書、公共交通）を所管される課が候補になり得ると存じます。

- **妊娠届出**
- **一時預かり**
- **建築計画概要書**
- **公共交通**

測る指標は2つ —— 市民の皆様の待ち時間と、リードタイム（申請から結果までの日数）です。
ここが短縮されれば、市民の皆様の体験が実際に変わると考えております。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

第 2 段

なぜ『業務』ではなく『課』を単位にするのか

1 課によって業務の性質が大きく異なります

基礎自治体では、たとえば福祉課と土木課とでは業務の性質が大きく異なります。ひとつの業務の成功事例が、そのまま他課へ横展開できるとは限らないと拝察いたします。

→ 横展開できるのは「個別の手順」ではなく、「課題の洗い出し方」と「働き方の変え方」であると考えております。

2 ひとつの手続きのみを速めても、課全体は変わりません

特定の申請ひとつを作り直しても、同じ課が抱える他の業務が旧来のままであれば、職員の皆様の働き方は変わらず、空いた時間も生まれないのではないかと存じます。

→ 課の業務全体を見渡し、課題の洗い出しから始めさせていただきたいと存じます。

横展開できる資産は、完成したシステムではなく、
「課が自らの課題を見つけ、働き方を変えた経験」であると考えております。

第 2 段

なぜ、短期で成果が見込まれるのか

順序の利点

貴市は入口が既に整っております。
そのため後段を整えれば、全体が通ります。
一から着手する団体より速く進むと存じます。

逆に申し上げれば

リードタイムが短縮されない限り、
「行かない市役所」の実現は難しいと存じます。

リードタイムをどう扱うか

いま	Step 2	第1年度
測定は未実施	**現状を測定（基準線）**	**数字で語れる変化**

数値目標は [貴市にてご設定] いただきます。弊社は、測り方の設計に加わらせていただきます。

第 3 段

人が回せるようにする

第2段は、ツールの導入のみでは実現いたしません。職員の皆様が自ら働き方を設計し直せる状態が必要です。

貴市のKPIは、人材の3層と正確に対応しております

全職員

庁内向け生成AI利用者数
1,600人

「使ったことがある」→
日常業務の標準行動へ

中核

デジタル行政推進リーダー
40人

研修受講者 →
業務再設計を担う実務者へ

内製

庁内向けBIダッシュボード
20件

発注して作ってもらう →
自分たちで回すへ

階段の高さ＝層の深さ（左から右へ、関与の度合いが上がる）

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課

立ち位置

弊社の関わり方

弊社が担うこと

・設計のご議論に加わらせていただきます

・他自治体や民間企業が同じ局面で
直面した論点をお持ちいたします

・何を測るかをご一緒に考えます

・貴市が自ら活用できる資源に接続します

弊社が担わないこと

・長期の育成実行を代行すること

・貴市の内部人材が育つ機会を、
外から埋めること

**その理由は、「デジタル行政推進リーダー40人」が貴市の中で育つことを目指しているためです。
外部が担い続ける限り、それは実現しないと考えております。**



第 5 章

成果をどう測るか

「取り組んだ量」から「何が良くなったか」へ

指標

測る軸を加えることをご提案申し上げます

現在のKPI

満足度
利用件数
参加者数
利用率

いずれも「取り組んだ量」を測る指標であり、「何が良くなったか」は測れません。

加えるべき軸（数値は[貴市にてご設定]）

手続きのリードタイム

申請から結果が出るまでの日数

職員の事務時間の削減量と、その再投資先

削減のみでは成果とは申せません。何に振り向けたかまで測ります

窓口への来庁が必要な回数

「書かない窓口」の実質的な達成度

人口減少下での成長を示す指標

現在KPIが設定されていない最重要領域と存じます

プランは「毎年、時点修正を行う動的なプラン」とされており、指標を後から加える余地がございます。

出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課



第 6 章

進め方

半日から始め、第1年度内に数字をおつくりいたします

進め方

3ステップ

Step 1

半日ワークショップ

「2029年の金沢の立ち姿を1枚に描く」

ご出席は局長級以上を含めて

成果物＝埋まった到達姿1枚と、
最初に取り組む所管課の候補

継続を前提といたしません

Step 2

所管課を定めて測定

対象となる所管課を1～2課定め、
その課の業務を洗い出したうえで、
現状のリードタイムと
市民の皆様の待ち時間を測ります

ここが基準線

Step 3

基盤と再設計をセットで

基盤と再設計をセットでご議論
いただき、第1年度（2026年度）
内に数字で語れる変化をつくります

第1年度内

あわせて、対象課の職員の皆様を対象としたM365 Copilotのハンズオンを組み合わせることも可能でございます
（実務で手を動かしながら、ご自身の業務のどこを変えられるかを見つけていただく形といたします）

Step 1 は半日でございます。継続の可否は、その後にご判断いただけますと幸いです。

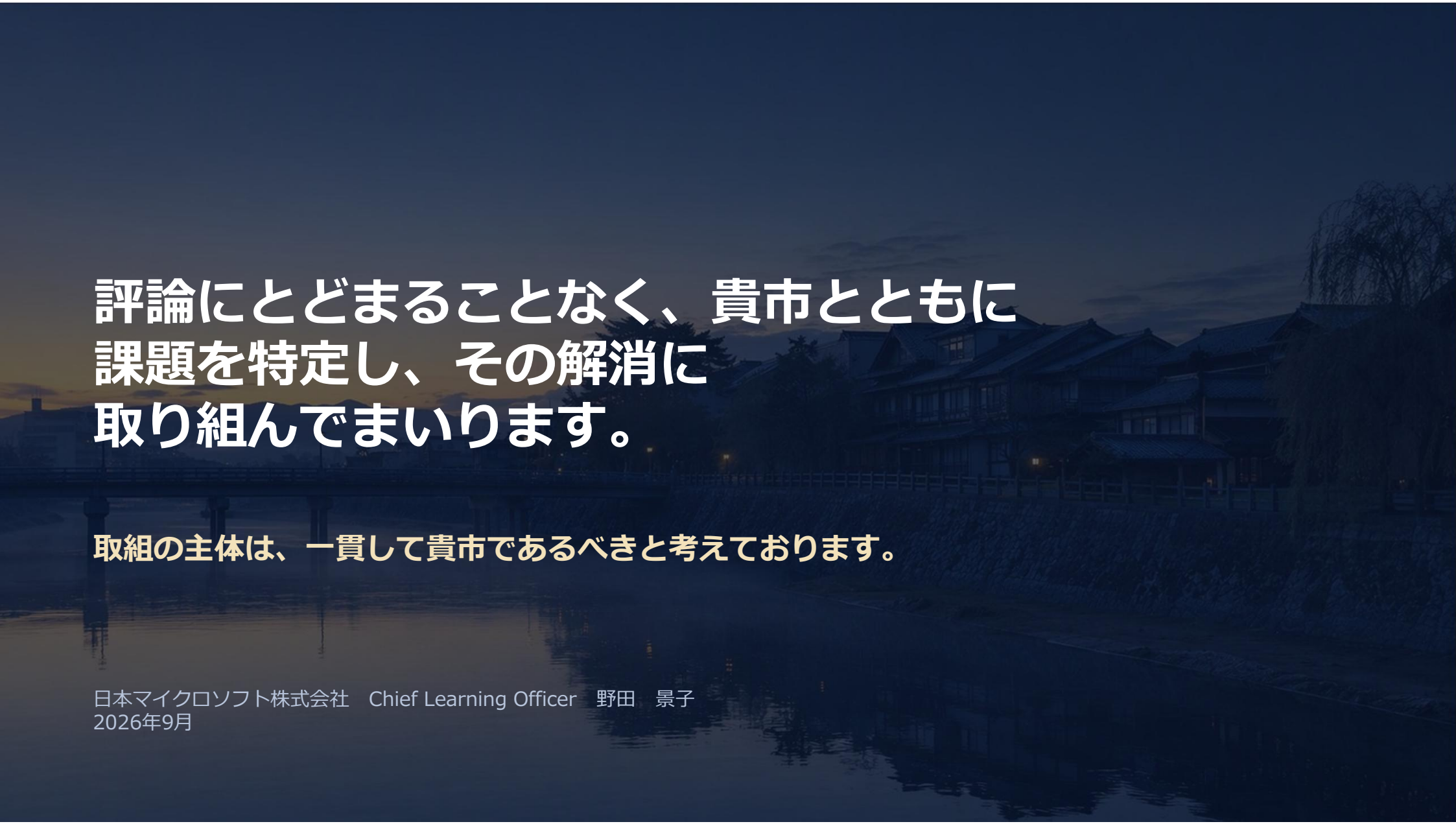
事実確認

最初にご確認をお願いしたい事項

以下はいずれも公開資料からの推察であり、事実関係のご確認をお願いしたい事項でございます。

1	**主要サービスの現在値**	電子申請の年間件数、かなパスの登録者数をご教示いただけますでしょうか
2	**リードタイムと待ち時間の現状**	主な手続きについて、申請から結果が出るまでの実日数と、課ごとの把握状況をご教示いただけますでしょうか
3	**RPA・AI-OCRの適用範囲**	どの業務に導入され、どこが手作業のままかをご教示いただけますでしょうか
4	**現在のデジタル基盤**	情報基盤・ID・セキュリティの現状をご教示いただけますでしょうか

特に2点目は、現在測定されていないのではないかと拝察いたします。測られていないがゆえに、そこが制約と気づかれにくい構造にあるのではないかと存じます。まず現状の把握から始めさせていただきたく存じます。



評論にとどまることなく、貴市とともに
課題を特定し、その解消に
取り組んでまいります。

取組の主体は、一貫して貴市であるべきと考えております。

日本マイクロソフト株式会社　Chief Learning Officer　野田　景子
2026年9月

出典

本提案が参照した資料

金沢市DXアクションプラン2.0

2026年1月策定／2026年6月増補
金沢市 都市政策局デジタル政策課

本提案に記載した数値は、すべて同プランに記載された2029年度末の目標値でございます。
現在値（ベースライン）は、公開資料からは確認できておりません。

数値・固有名詞は同プランの記載に限っております。推定した箇所は本文中に明記しております。
出典：金沢市DXアクションプラン2.0（2026年1月策定／2026年6月増補）金沢市 都市政策局デジタル政策課
本資料に関するお問い合わせ先：日本マイクロソフト株式会社　Chief Learning Officer　野田　景子

金沢市DXアクションプラン2.0に関する提言書

令和8年9月30日

一般社団法人コード・フォー・カナザワ（Code for Kanazawa） 代表理事
デジタル庁オープンデータ伝道師
総務省地域情報化アドバイザー
福島 健一郎

Code for Kanazawa

提言の概要

金沢市DXアクションプラン2.0において二つの視点が提示され、1.0に比べて
市としてどこに重点を置いていくのかが分かりやすくなっている。
様々な施策が二つの視点、言わば二つの目的で実行されるようになっていることで
ブレずにDX化が進む一助になるのではないかと感じた。

その中で、今回、共創における重要な基盤となるオープンデータと
共創を促すハッカソンのやり方についてさらに深化していく必要があると考えた。

提言1：AI時代に合わせたオープンデータ構築

オープンデータ最大の利用者AIのためのオープンデータ運用へ

提言2：ハッカソンの価値化

ハッカソンの目的を明確化し、市としてリーダーシップを発揮して推進

提言Ⅰ　AI時代に合わせたオープンデータ構築

DXアクションプラン2.0での柱の一つである「共創のための環境整備」
その大事な基盤がオープンデータ

オープンデータが官民共創を促していく事例は
欧米の事例やコロナ時の台湾、国内事例でも数多くある

そしてAI時代において、人間はAIとも共創していく中で
オープンデータの価値はますます高くなってきた

行政機関が出すオープンデータはWeb等にある通常のデータよりも
一次情報として信頼性が高いことから
AIの推論や回答に対して有用なデータとして活用されることが期待されている

もはやオープンデータの最大の利用者はAIになるかもしれない

やるべきこと

1. まず一次情報としてのオープンデータを数多く出す※量を増やす
2. オープンデータのメタデータをしっかりと整備する ※データの意味を加える
3. データの構造化を進める ※よりデータの関係性を論理的に表現する
4. データマネジメントポリシーを定めて上記のようなデータを
   生成しやすくする

仕組みとしては、1～3を心がけつつ、
普段からのデータ生成がそれに準ずるものとなるためにデータマネジメントポリシーを庁内に整備する

提言2　ハッカソンの価値化





昨年度から石川県庁（IUDC）と金沢市（金沢シビックテック推進協議会）共催で年に2回程度、ハッカソンを実施している。参加者は80〜100名近くと多く、県内外から学生や社会人までがチームを構成して様々なテーマに取り組んでいる。

ただし、ハッカソンは何を目的としてやるかがとても大事なイベントであり、金沢市であればシビックテック推進協議会としての目的と合致することが大事となってくる。

やるべきこと

1. シビックテックや市民との共創強化を目的とする
2. 金沢シビックテック推進協議会として企画から強く参画する
   （県との役割分担の見直しも検討してもよい気がする）
3. フォローアップを視野に入れていくこと
   （市民参加の継続性を持たせる）
4. 求められているオープンデータをきちんと把握して推進する



コードで世界をHappyに

Code for Kanazawa

AX時代の金沢市DX生成AI導入促進

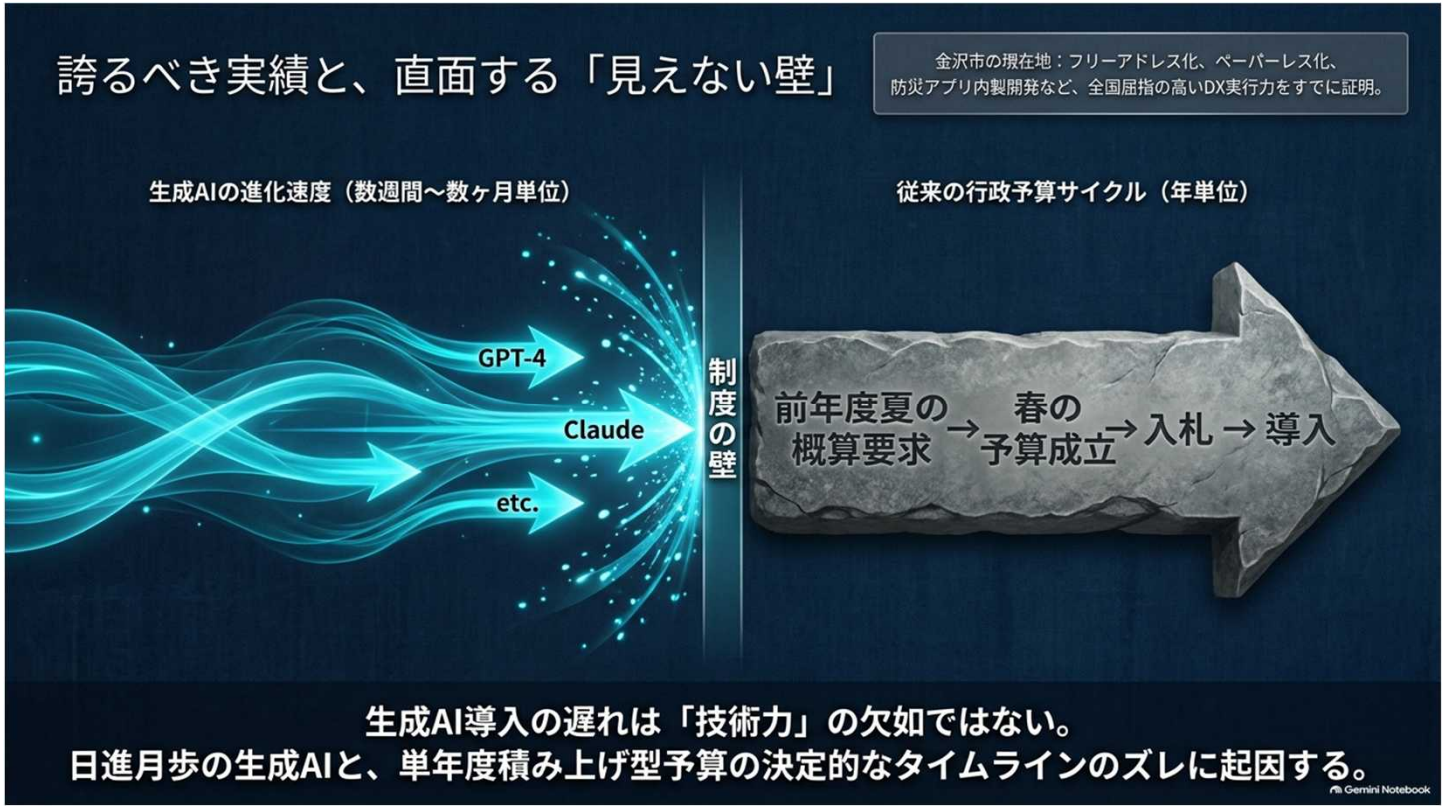
進化スピードに合わせた予算・決裁制度の根本的転換の提言

金沢市DX推進会議委員
早稲田大学・稲継裕昭

進化が著しい生成AI時代において、「使わないリスク」や「決定の遅れ」は最大の不作為。
横須賀市のガバナンスモデルから学ぶ改革のロードマップ。

提言①枠予算
提言②法人カード
提言③全職員同時アクセス

庁内DX先進自治体「金沢市」の現在地



中核市でいち早く**完全フリーアドレス、ペーパーレス**を実現した金沢市。
100人のデジタル行政推進リーダーを育成した実績は**全国の注目の的。**

しかし、生成AI導入では<u>大きく遅れ</u>をとっている。

原因は行政の予算サイクル

提言①AX・枠予算制度の導入

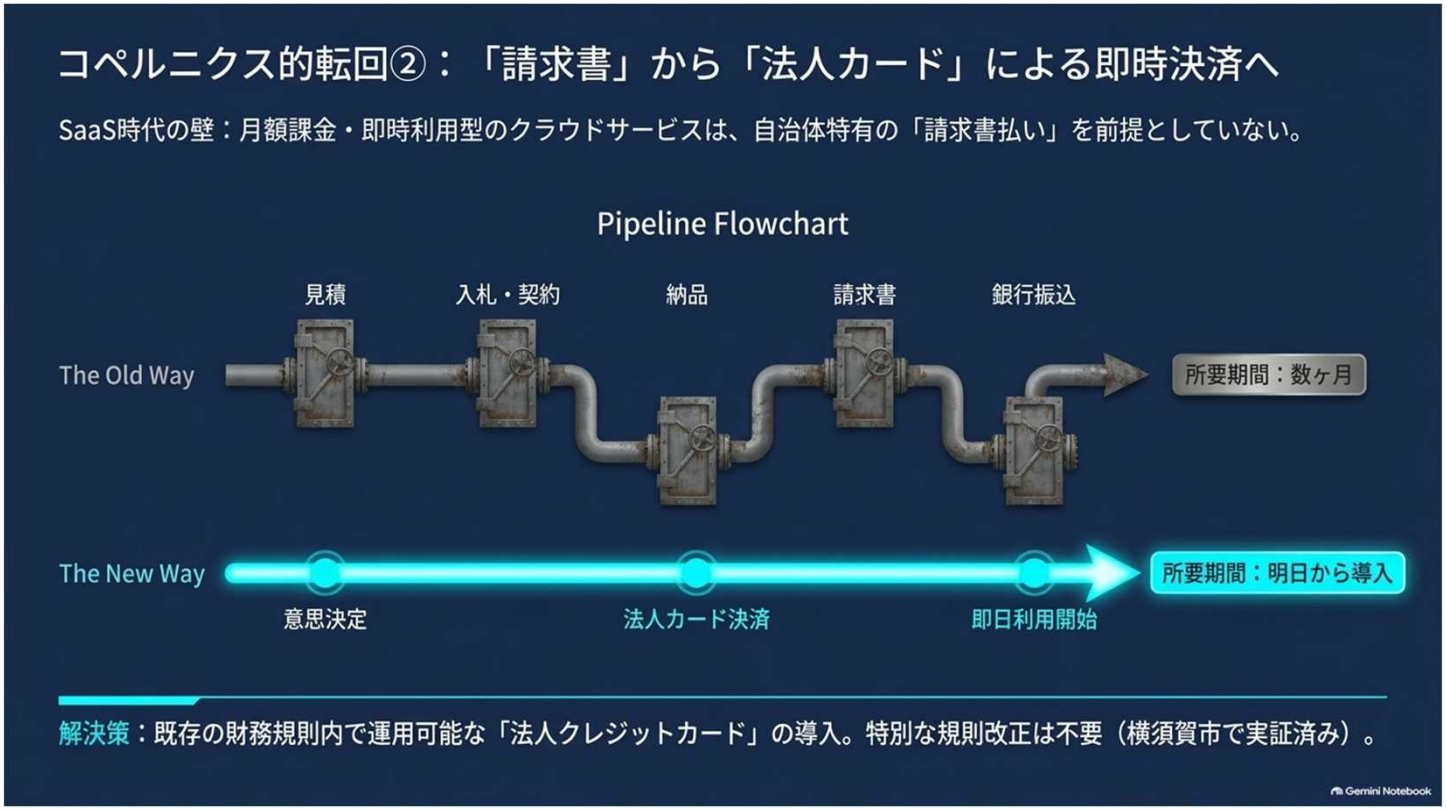


生成AIの進化は月単位，週単位。行政の予算サイクルには合わない。

横須賀市で導入されている
ICT利活用費は枠予算。
その範囲内で少額であれば室長決裁、数百万以上のものは副市長決裁が必要だが、財務査定はない。

金沢市でも導入へ

提言②法人カードの導入

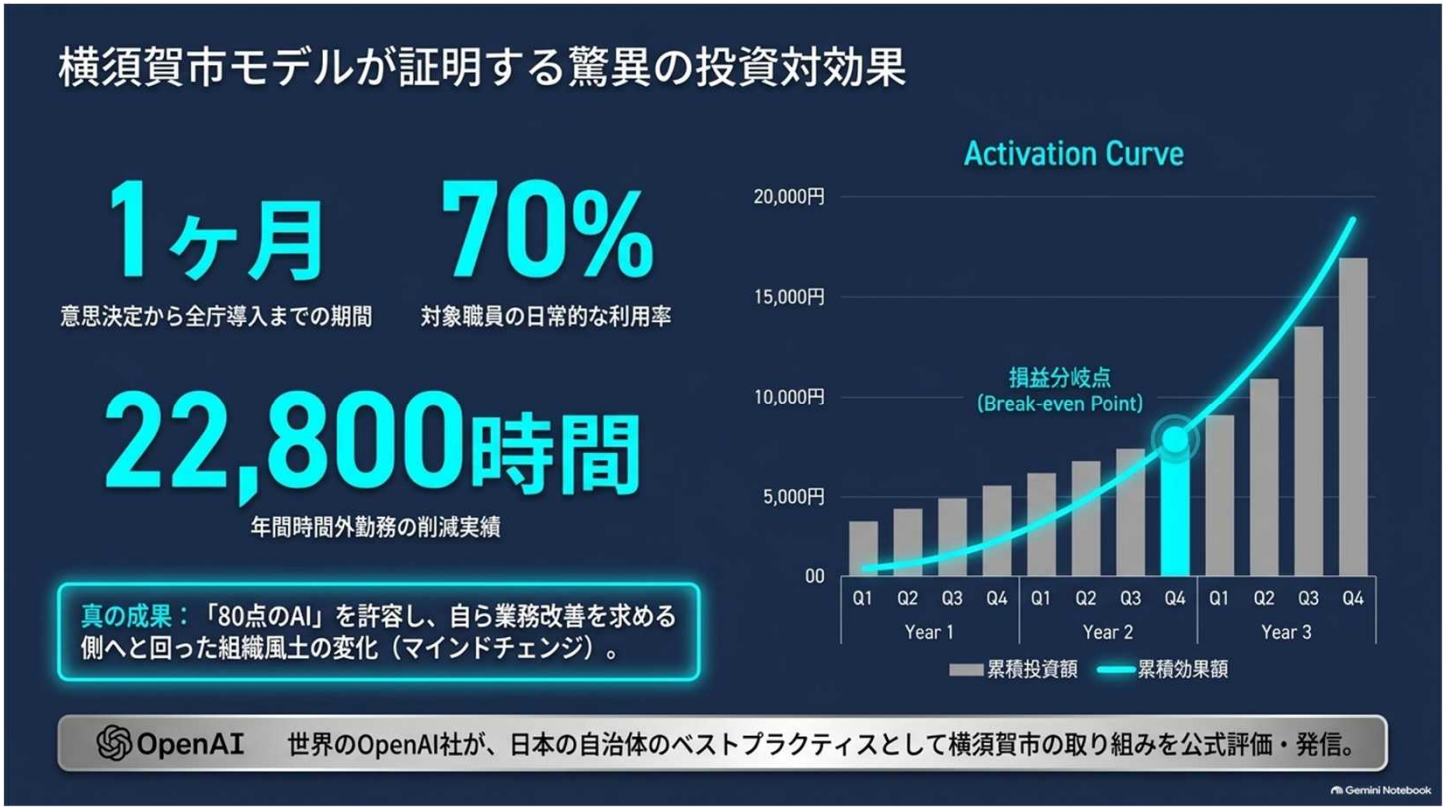


従来の請求書払いの時間軸は、AX時代には不適

法人カードの導入は、総務省で認められている。

金沢市でも法人カードを導入へ

提言③全庁全職員同時アクセス可能に

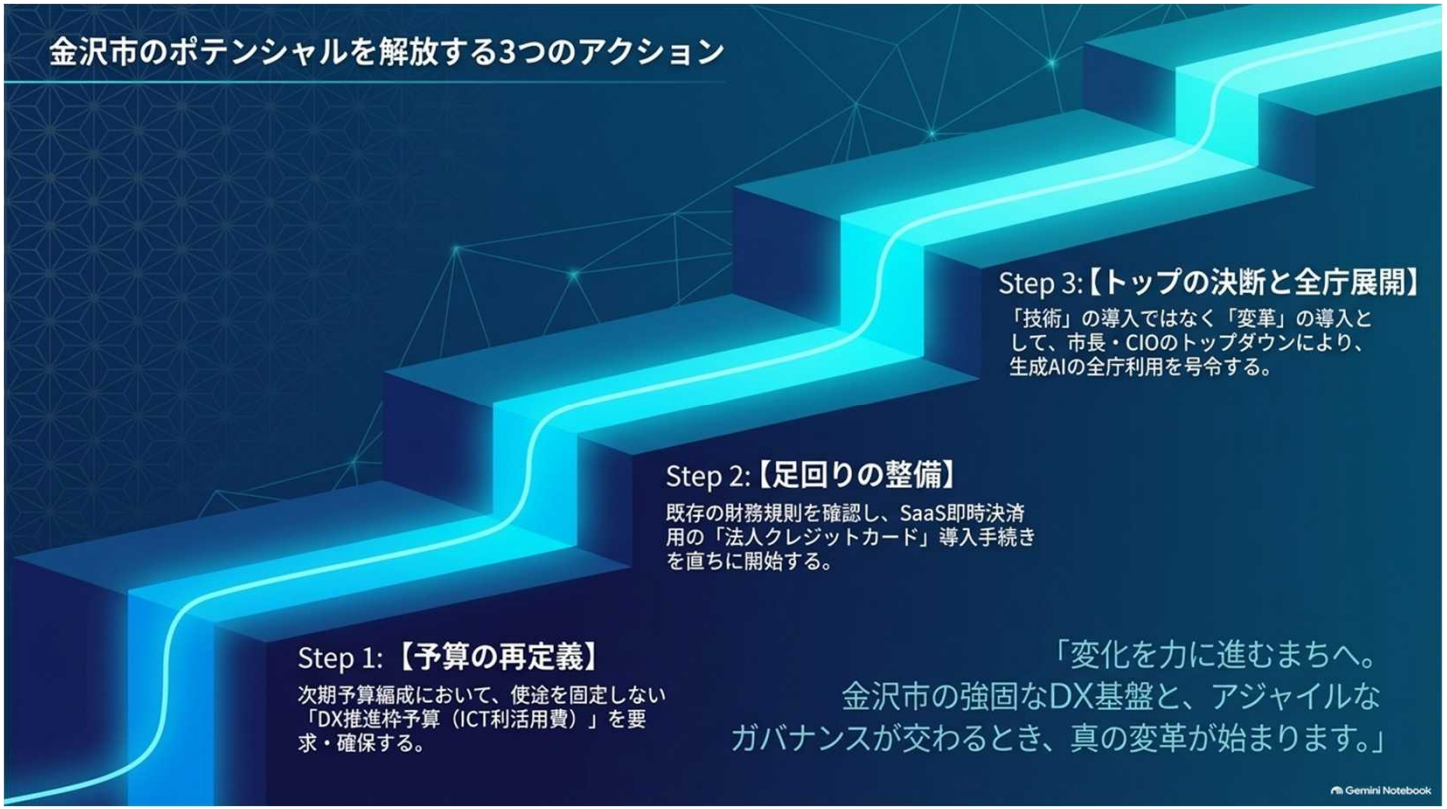


横須賀市では、全職員の7割（2900人）が生成AIを日常的に活用。
←金沢市はどうか？

横須賀市：
年間で22800時間の時間外勤務の削減。

投資効果は多大なものがある

庁内DX先進自治体金沢市をAXでも先進自治体へ



提言①枠予算
提言②法人カード
提言③全職員同時アクセス

今、必要なこと
・予算の特別枠、再定義
・足回りの整備
・トップの決断と全庁展開

令和８年度　金沢市ＤＸ会議　スケジュール（予定）

5月	DX推進本部①（5/25）… 掲載施策について共有		
6月	DX会議① 「金沢市DXアクションプラン2.0」の増補について	6/5	
7月			
8月	DX会議② 金沢市のAIの活用について、データ利活用について	8/3	
9月			
10月	DX会議③ 金沢市のデジタル施策について（委員ご意見）	10/22	
11月			
12月			
1月			
2月	DX会議④ 「金沢市DXアクションプラン2.0」の改訂について	2/24	2/26

年度内に「金沢市DXアクションプラン2.0」を改訂（R9新規施策追加など）